

インターバンクの声（2017 年 10 月 17 日）

週明けのロンドン市場の円相場も、週末に発表された 9 月の米消費者物価指数が市場予想を下回り、FRB の年内利上げが後退したとの思惑から 111 円台後半まで円買い・ドル売りが進んだ後の膠着状態が続いた。

東京市場ではどうにか堪えた消費者物価指数発表後の 111 円 60 銭台を明確に下抜け、9/25 のニューヨーク時間に北朝鮮と米国の緊張が高まった際に付けた 111 円 40 銭台も割り込んでしまうと再びドルの下値が見え難くなる場所に差し掛かっていた。

ただ昨晚の相場は、誰かがドルを買い戻してくれるのを待っていた節もあり、折しも米長期金利が僅かながら上昇に転じ、米政府関係者と北朝鮮北米局長が今週モスクワで会談する可能性があるとの報道が流れたとあって円相場も 112 円台に戻している。

その後、北朝鮮は米国との外交的接触を拒否したとの話も伝わっているが、仲介に動いているロシアの折衝継続への期待は残っている。また、次期 FRB 議長にはジョン・テイラー元財務次官かイエレン現議長の再任が最終選択肢と報道されたこともドル買いをサポートしたようだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。